

第1回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日 時】令和元年 8 年 26 日（月）13：30～17：00

【出席者】委員 13 名（中山委員、鶴谷委員、美馬委員、服部委員、牧浦委員、安中委員、白銀委員、東谷委員、梶野委員、岩城委員、平塚委員、柏木委員、西山委員）

担当課

（政策調整課） 5 名

【欠席者】委員 1 名（高井委員）

【傍聴人】 0 名

【事務局】 6 名（阪本部長、中川理事、俵本課長補佐、日高係長、高野主事、南主事補）

1. 開会

- ・検証の趣旨、スケジュール、改訂の説明
- ・13 名の委員が出席であるため、会が成立していることの説明

2. 委員紹介

- ・委員の紹介と委嘱状の交付
- ・委員長・副委員長選任（委員長：中山委員、副委員長：鶴谷委員それぞれ再任）
- ・委員長・副委員長あいさつ
- ・事務局配付資料確認

3. 議題

(1) 総合戦略改訂版の説明について

- ・事務局から改訂版の策定を踏まえた検証についての説明。

(2) 上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

【子育てママ就業支援事業】

担当課：＜子育てママ就業支援事業について説明＞

牧浦委員：平成 30 年度決算見込み、令和元年度予算に関して説明していただきたい。

担当課：平成 30 年度の事業費については、事業の立ち上げ、事業拠点の運営をママスクエアさんをお願いしたが、より効果的な事業の実施を図るためプログラム作成をお願いしたものの。令和元年度についてはそのプログラムの有効性を確認するため、実証実験を行う

ための費用。

牧浦委員:それは当初から町が負担して実施するものとなっていたのか。

担当課:この事業は地方創生推進交付金を活用して実施している事業であり、申請の時点で事業の立ち上げから人材育成の部分までを3年間のなかで町として取り組んでいきたいということで国に申請し採択されたものである。

牧浦委員:わかりました。KPIについては、当初から「出生数」が挙げられていたか?「利用者数」でなくともいいのか?

担当課:こちらのKPIは総合戦略のほうで挙げているもの。平成29年度にこの事業を追加したが、「安心して共働きできる環境の整備」という施策に対して、いろいろな事業が取組内容として設定されていて、あわせてKPIについても施策に対してそれぞれ設定されている。子育てママが働くことで出生数を上げていきたいという思いがあって取り組んでいるものであるが、総合戦略で設定されている目標値より高い水準で施策が推進されているという状況であるということ。

服部委員:取組独自の指標として「ママスクエア上牧店」の利用者数の目標値として40人とされていて、実績として18人という結果であるのに、概ね目標の成果が得られたという評価でいいのか?

担当課:達成度につきましては、自己評価のなかで総合戦略のKPI、独自指標、プログラムの作成など、総合的な判断をしているが、仰っていただいているとおいろいろな見方がある。担当課としては、取組内容に対する成果として概ね成果を得られたと考えているということでお示しさせていただいているところであるが、ある指標を重視してその評価は違うのではないかというご意見のなかで委員会として評価が変わるのもこの検証委員会のひとつの形だと思う。

服部委員:つまり、各委員、理事者側の意見をまとめる委員会と理解してよろしいか。

担当課:その通り。

委員長:KPIの見方に関する確認。改訂のなかで再検討すること。

副委員長:利用者が15人から18人に増えたことに対してはどのような分析か。

担当課:18人のなかには当初の15人が継続しているかたが多い。一部退職されている方もいるが、妊娠等で退職されているケースが数例あるという報告を受けている。

安中委員:自治会などの取り組みをしているが、40人を目標にしていて18人という結果だとB評価が妥当であるとは考えにくい。数値的な判断だけでなく、中身的にどうかという判断も含めてということだと思うが、この委員会の判断が事業に対してどう影響するのか。

担当課:あくまで単年度単位で検証しているので、対象年度の目標設定に対してどういう結果だったのか、今後の方針を踏まえてよりよくしていくためにどのようにしていくのかというのが基本的な趣旨だと考えている。

副委員長:目標値である利用者数の40人というのはどこから出てきているのか。国との関係の中でそうなっているというのであれば理解できるが。

担当課:仰る通り。出生数と同様、実施計画の中で設定している KPI のうちのひとつである。

副委員長:プログラムの作成を通じて、改善を試みているということで説明しておられて、それで 30 年度の評価をしていただきたいということで理解していいか。

担当課:達成度の理由でも記載しているが、現状、仕事の受注の部分で制限がかかっているの
で、人材育成が必要だと考えていて、その解決策として人材育成、発掘につながるプログラムについては作成することができている。加えて出生数の KPI は達成していること、利用者数も前年度から若干ではあるが増えており、独自指標は未達成ではあるが、その他の部分で成果を得られたと考えて B 評価とさせていただいている。

服部委員:この事業は子育て支援につながっているのか。

担当課:広報 5 月号で特集記事を掲載させていただいたが、利用者へのインタビューのなかで、自己実現につながったとか育児ノイローゼ気味だったが、環境の変化でリフレッシュできて子育てにも好影響が出ているという声をいただいております、継続的な収入の確保はもちろん、様々な効果が出ていると感じている。

委員長:達成度で数字だけではなく、内実的なところも加えていただきたい。評価については事務局提案通りで承認する。

担当課:<改訂に係る意向調書について説明>

西山委員:KPI は延べ人数なのか、それとも一定時期の数値目標なのか。

担当課:一年間の中で在席されたかたの数を「利用者数」としている。延べ人数としている。

服部委員:基準値も同様か。

担当課:その通り。KPI の記載についてはわかりやすいように工夫する。

委員長:基準値はどの時点なのか? 翌年度当初時点というのが分かりにくい。

担当課:意向調書は平成 30 年度を記載しているが、現行総合戦略に設定されている基準値もあるので、改訂にあたってどのように設定すべきか、内部でも検討したうえでお示しさせていただく。

副委員長:利用者数の目標値の根拠はどうなっているのか? キャパシティの問題もあると思うが。

担当課:環境整備の段階で 30 人の利用者が同時に利用できる場所にしようということで進めていた。そこから事業を拡大展開していくなかで、より多くの希望者を支援していくために少しずつでも増やしていくような目標設定をした。具体的に見込みがあったわけではないが、事業として課題を解消しながら、成果を上げていながら取り組んでいくことを目指していた。

副委員長:現状では MAX で 30 人しか働けないということか。

担当課:現状ではそうだが、環境整備ももちろんだが、仕事の受注も必要になる。両面で取り組んでいかなければならない。この事業については、子育てしながら育児の都合に合わせて働くことを支援するもので、利用者として 50 人のかたに登録していただいた場合、そのなかから仕事量に合わせてシフトを組んでいくことになるので、仕事の受注を支援していきながら、利用者数に応じて環境も充実させていくということになる。

副委員長:延べ人数でもいいと思うが、新しい指標をつくってはいけないのか。例えば稼働率とか。

担当課:総合戦略のなかでは特に差支えはないと考えている。

副委員長:現場の業者さんとの関係もあるので、十分検討していただかないといけないが、需要が確認できるような指標を設けるというのもいいのではないか。

委員長:意向調書については、ここでどういう処理をすればいいのか。

担当課:今回は担当課としての意向を示させていただいているというところまで。本日いただいた意見を踏まえて、改訂版の内容について内部で検討する。そのうえで改めて案という形でお示しさせていただく流れを想定している。

【UR住宅の活用協議】及び【UR住宅への入居促進】

担当課:<UR住宅の活用協議及びUR住宅への入居促進について説明>

委員長:2事業を合わせて検証する。

梶野委員:人口や空き室などの現状は把握されているか？

担当課:人口は平成31年度当初で2,058人。空き室は昨年度時点で27.74%。

梶野委員:子育てとか町内のいろんな課題に対し、空き家をうまく利用していくことを検討されているというのはわかるが、もう少しPRとか町民に利用を訴求していくとかがあってもいいのでは。

担当課:UR側で再編計画を持っており、西大和片岡台についても今後再編していくという方針になっている。そのなかで町と協議を重ねているなかで、地域医療福祉拠点化の実現を目指し検討しているところ。

安中委員:コミュニティの中にいる方々は一生懸命取り組まれている。他から入ってくる場合、大阪とか近隣自治体に向けて呼びかけていくことになると思うが、どんなに交渉を重ねてもなかなか進まないという話は聞いている。URの利便性、環境の良さは感じているので、あとは外に向けてのアピールに尽きるのではないかとと思う。

担当課:URについても、いろんなところにあるUR住宅で自治体と連携しながらやっているのでも、上牧町でもURと協力しながらやっていきたいと考えている。

安中委員:何年後にどれくらいにするという目標数値はあるのか？

担当課:今のところは再編という話だけで、具体的な目標数値や時期までは聞いていない。

担当課:<改訂に係る意向調書について説明>

委員長:目標値が基準値より低くなる理由について説明を書いておいたほうがいい。

西山委員:目標は人口を維持していくという内容だと思うが、具体的にどのような取り組みを行っていくのかを付け加えたほうがいいと思う。

委員長:評価については事務局提案通りとする。

【上牧町交通政策検討会の開催】

担当課:<上牧町交通政策検討会の開催について説明>

安中委員:バス(移動手段)だけのことか、免許返納やそれに伴う自転車ニーズの増加などについては含まれているか。

担当課:交通政策なので基本的な考えとしては幅広く、仰っていただいているところを排除するものではないが、現状としてはコミュニティバスの利用などを中心に検討を考えている。

安中委員:町主催の交通勉強会を実施するところまできたが、そうした予算は含まれないのか?

担当課:交通政策として、主にコミュニティバス、奈良交通、デマンドタクシーなど、上牧町の移動手段の大きな部分を検討していく内容になるので、啓発部分については違うところでの検討を考えている。

副委員長:基本目標が「若者世帯を中心とした転入世帯が住みやすい住環境を整備する」ということになっているので、ニーズとしては若い人の意見を入れていくべきではないかと考える。若い人のアンケートの意見だと、夜にバスがなくて、王寺駅まで子どもを迎えに行くことが多いという意見もあったと思う。年配の利用者が多いのは事実だと思うが、若い人向けの視点は忘れないでほしい。住民の関心も高いと思うので、他の市町村との連携も踏まえて、検討してもらいたい。

担当課:奈良交通の路線との兼ね合いもあるが、棲み分けをしながら、若い人のニーズも含めて、検討していく。

担当課:<改訂に係る意向調書について説明>

西山委員:実施計画を立てて、今後、若者世帯の視点を踏まえた交通網の形成を考えていくということであれば、それが機能しているのか検証するような内容も考えてもらいたい。当初の計画では年に1回ということだが、2回にしたらどうかと考える。

委員長:交通問題は上牧町にとって極めて重要。総合戦略の策定の際も、これが解決しないと若者をはじめ、住み続けるとか転入してくるとか簡単にはいかないのではないかという議論をしていた記憶がある。かなり重要な政策だと思うので取り組みを進めていただきたい。

【イベント等における町のPRの実施】

担当課:<イベント等における町のPRの実施について説明>

<改訂に係る意向調書について説明>

委員長:当初のKPIであるホームページアクセス数は削除するのか?PRに関する取り組みとして取組内容や達成度でも記載があるのもったいないと思うが。

担当課:仰る通りだと思うので、新しいKPIと2つ設定する。

【同居・近況相談窓口の設置】

担当課:<同居・近居相談窓口の設置について説明>

<改訂に係る意向調書について説明>

牧浦委員:同居の支援というのはどういうことなのか?

担当課:住友不動産、住友不動産販売、南都銀行と4者で空き家の利活用に関する連携協定を締結したが、空き家の持ち主への支援としては手放すことを前提にしている。現状での同居支援としては、空き家の購入を検討している希望者が親との同居を望んだ場合で、購入を検討している空き家バンク登録物件の大きさでは狭いときにおける空き家バンク登録物件の取得・増築に関する相談や割引というものに限定されており、住んでいる物件の増築、リフォームには対応していない。今後は考えていくべきところかとは思う。

牧浦委員:帰ってくる予定はないが、補助があれば帰ろうかという人もいると思うが、現状では対応していないということか。

担当課:仰る通りで今後の検討課題だと考える。

西山委員:今の担当課の説明だと、同居・近居相談窓口の設置に関しては空き家に関する取り組みの中で考えているということだと思う。他の取組内容だと何かと統合、集約するというふうになっているものが多いが、この調書だけを見るとそうになっていないので、今の説明通りであれば、空き家の取組の中で充実させていくというようにしてもらえたらと考える。

担当課:担当課と相談のうえ、また内部でも検討していく。

委員長:統合・集約していくとなくなってしまう施策・取組も出てきてしまう。単純に空き家に統合して削除でいいのか、内部で検討してもらいたい。その他については事務局提案内容で了承する。

【大規模同窓会等の支援】及び【地域イベントへの招待】

担当課:〈大規模同窓会等の支援及び地域イベントへの招待について説明〉

〈改訂に係る意向調書について説明〉

服部委員:今説明されたなかに予算が記載されていないものがあるが、予算がついてないから実施できていないのか、実施したら予算が記載されるのか。その辺りを教えてもらいたい。

担当課:資料に沿って順番に説明させていただくと、大規模同窓会の支援については、今考えているところと言えば、町のホームページや SNS の活用などお金をあまりかけずに実施したいと考えているところ。ペガサスフェスタについては、「イベント等における町のPRの実施」で事業費を計上しているので、重複しないようにここでは記載していない。移住支援金に関しては、改訂版で新たに取組内容として盛り込むことになれば、来年度以降の検証で取り扱っていくことになる。先に説明した UR の取組も同様。

安中委員:イベントの告知をしないと意味がないと思う。

担当課:今年度招待する場合は改善していきたい。

西山委員:地域イベントへの招待で KPI を見ると、最後に 1 回となっているのは何を想定しているのか。改訂に伴って削除して「イベント等における町のPRの実施」に集約ということだが、そこで新たに KPI として何か設定するのか教えてもらいたい。

担当課:地域イベントの開催数という KPI を生かしていきたいと考えている。昨年度空き家を活用したイベントを実施したが、町外の方を招待するということはできなかった。別のところで

空き家を活用したイベントを開催する際には、町外のかたにも来ていただけるような周知も考えていきたい。

西山委員：ペガサスフェスタとは別のイベントということでいいですね。あと、地域のイベントは行ったが、招待は行っていないということで、ここには記載はないということだが、地域のイベントとして別に出てくるということでいいのか？ KPI のところはどうか？

担当課：KPI の訂正をお願いしたい。空き家を活用したイベントも地域イベントと言えらると思いますので、平成 30 年度の実績値として 1 回としていただきたい。現在整備している空き家の活用も見据えて、目標値も 1 回とする。

副委員長：大規模同窓会の支援に関しては、計画を立てる段階で、ワークショップの中で出た意見で同窓会ができたらいねというものがあつたと思う。当初は上牧町から出ていった人が戻ってくるきっかけになつたらいいという発想だつたと思うが、代替事業が東京圏に住んでいる人を対象にしている事業になつていて新規事業になつている。どういう意味で転換したのかを説明してもらいたい。

担当課：移住支援金については、移住促進もあるが U ターンの要素も含まれている事業で、県と連携して取り組んでいるもの。U ターンの要素もあるので、「帰っておいでプロジェクト」という施策を維持したいという意図があつた。現時点で担当課として説明できるのは、移住支援金しか提案はないが、検証委員会でいただいている意見や内部で取り組んでいる定住施策検討プロジェクトやコンサルの提案などを踏まえて、その他の取組内容も改訂版(案)のなかで示させていただく可能性はある。

副委員長：私としての要望は、移住もいいが、税金を払っているのは住民だから、まちの人たちにわかりやすいように U ターンを積極的に取り組んでいるというのが大事な視点だと思うし、大規模同窓会については残すべきだと思う。

西山委員：イベントの企画の中で取り組んでいくということで「イベント等における町の PR の実施」に取り込んでいこうという考えでいいのか？ 単によそから来ていただくというわけではなしに、U ターンにもつながるような取組みにしていく方向で検討していただければと思う。

委員長：現状「イベント等における町の PR の実施」は変更なしになっているが、場合によっては変更していく必要があるかもしれない。

【公共施設の相互利用】及び【相互利用施設の情報発信】

担当課：＜公共施設の相互利用及び相互利用施設の情報発信について説明＞

＜改訂に係る意向調書について説明＞

安中委員：たとえばペガサスホールとかになると思うが、相互に使うというイメージが湧かない。説明してもらいたい。

担当課：上牧町ではペガサスホール、体育館があるが、広陵町、王寺町、香芝市、大和高田市だつたと思うが、そのなかで公共施設の連携を図りながら、ペガサスの使用方法などを

検討しながら進めているところではあるが、メリット、デメリットも各市町村で違うので、まだまだ検討課題はたくさん残っている状況。

【町内の優れた技術・能力を有する人材発掘】及び【人材バンクの情報発信】

担当課：＜町内の優れた技術・能力を有する人材発掘及び人材バンクの情報発信について説明＞

＜改訂に係る意向調書について説明＞

西山委員：KPIに関して、平成31年度に50人にしたのか教えてもらいたい。

担当課：前の計画で掲げていた目標というものであるが、意向調書の数値との矛盾についてのご指摘はごもっともだと思うので、適切な数値について再度検討し置き換えたいと思う。

委員長：「人材バンクの情報発信」がC評価になっているが、目標に対して登録者数が少ないということでそうされていると思うが、違う取組内容では内容を加味しておおむね達成にしているものもあるし、ここでは数字だけでC評価にされているように思うので、もう少し考えられたほうがいいのではないか。

担当課：「人材バンクの情報発信」に関しては、目標数値的にも活動量的にも至らなかったととらえている。

委員長：それであれば、他との整合性の問題もあるので、評価の理由を補足しておいたほうが良いと考える。

【地域活動支援】【地域活動の情報発信】【新規NPOの立ち上げ支援】【ボランティアの育成・団体立ち上げ支援】及び【自治会設立支援】

担当課：＜地域活動支援の説明、地域活動の情報発信、新規NPOの立ち上げ支援、ボランティアの育成・団体立ち上げ支援及び自治会設立支援について説明＞

＜改訂に係る意向調書について説明＞

服部委員：空白地はどこになるか？

担当課：美咲が丘(下牧1丁目1番地)と片岡台1丁目のセントラルヒルズ。

安中委員：セントラルヒルズには管理組合があると思うが、それを自治会にしようとしているのか。

担当課：空白地になっているので、自治会を設立していただけるのであれば設立していただきたいし、区域的に片岡台1丁目に入っていただく可能性もあるので、その辺りも啓発していきたいと考えている。

安中委員：再三声掛けはしているが、少子高齢化が進行していることもあり、なかなか進んでいない。町関与が必要だと思う。

担当課：自治会長とも連携して進めていきたいと考える。ただ、住民が主体になるので、役場から強制はできないので、メリットをご説明して、自発的に設立していただけるようにしたいと考えている。今後管理組合とも話し合いの場を持たせていただいて、片岡台1丁目

加入されたい方がいれば集約していきたいと考えているので相談させていただきたい。

梶野委員：自治会に入ればメリットがあると言われていたが、具体的に何があるか。

担当課：災害時の共助がまず一つ挙げられる。災害が起きた時に役場が住民の皆様を助けに行くということが、職員も被災しているのですぐに動けないという状況があり、例えば阪神大震災や、東日本大震災などで助かった人を誰が助けたのかというと、地域の自主防災組織や自治会、隣近所のかたに助けられたという回答が一番多かったという統計も出ている。まずは、自治会に加入して、地域のかたと一緒に活動をすることで状況を共有することで地域連携の強化につながると考える。

梶野委員：町の広報誌はどうなっているのか？

担当課：シルバー人材センターに委託してすべての住民に行き渡るよう配布してもらっている。

委員長：すべて「地域活動支援」に集約するということでもいいと思うが、また「地域活動支援」の内容を変更する必要があるがあれば検討させていただきたい。

(3)【上牧町協働のまちづくり公募型補助金】及び【就職情報発信】及び【就職準備セミナーの開催】の取扱いについて

・次回の議題とされることが決定された。

3. その他

- ・委員会は次回の開催は9月下旬を予定している。
- ・事務局から、委員会は毎月開催する予定であると説明があった。

4. 閉会

以上